



# ロータリーは 機会の扉を開く



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 渡邊 有規

幹 事 田原 聖

会報・雑誌委員長 伊藤 繁幸

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2886号 2020年10月6日(晴れ) 第12回例会 会員数120名 列席多数



点 鐘 渡邊 有規会長  
司 会 副SAA 野添会員

- ◇国歌並びにロータリーソング
- 新型コロナウイルス感染防止のため割愛
- ◇本日のランチ 持ち帰り弁当



ビジター紹介 倉井会長エレクト

- ◇卓話講師 宇都宮市長 佐藤栄一様(名誉会員)  
随 行 小林輝久様

会長挨拶 渡邊(有)会長

皆さん、こんにちは。佐藤栄一市長、本日は、大変にお忙しい中、ありがとうございます。この、16年、宇都宮を素晴らしい、より魅力ある都市にさせていただき、いま、宇都宮は日本に誇る注目度の高い都市となっております。そうした宇都宮をお作りいただいた佐藤市長に、当クラブの名誉会員になっていただいておりますことは、私たちに誇りであります。

佐藤市長とは若干29歳の時に青年会議所でお会いして、いち技術者、建築を仕事とする青年であった私に、大きな刺激、大きな感動を与えていただきました。佐藤さんが市長になられ、どんどんと市を改革されるのを見て、本当に嬉しく思っておりました。これからも、市長の仕事の集大成として、LRTやまちづくり、地域文化の向上、教育など、コロナもごございますが、多くのことを作り上げていただくと期待いたしております。こうして、35年の時を経て、ロータリーの会長として佐藤市長をお迎えできることも、本当に嬉しく、誇りに思っております。本日は、卓話を、どうぞよろしく願いいたします。



幹事報告

田原幹事

- ◇ロータリーレート 10月は1ドル105円。
- ◇ガバナー事務所より次年度地区委員推薦依頼が届く。候補者は、会長・幹事までご連絡を。
- ◇10月1日、第3グループA・B第1回会長幹事会がベルヴィ宇都宮にて開催(ホスト宇都宮陽北RC)。各クラブからコロナ渦の中十分な対策、運営をしていると活動報告有り。IMは短時間、懇親会なしの方向で開催を検討。8月31日現在の第3グループの会員数は601名。次回の会長幹事会は12月開催予定。



委員会報告

<誕生祝い・10月>

会員誕生

伴 清、片山 幸志、菊地 正幸、  
小石 敬信、宮下 浩、野口 忠男、  
野添 将嗣、大木八千雄、相馬 克美、  
田村 哲男、田崎 信孝、小尾 功  
各会員

夫人誕生

石塚 増男、菊地 憲寿、野添 将嗣、  
大関 国明、関 元明、床井 光雄、  
宇野 亮治、山本 修一  
各会員の奥様

- ◇スマイルボックス委員会 岡田委員長  
岡田孝司会員

9月28日、99歳で母、岡田ミサが老衰で亡くなり、10月2日カトリック峰教会で葬儀を行ったのですが、その際、宇都宮東ロータリークラブの会長はじめ多くの会員の皆様より多大なるお心遣い、お花、会葬をしていただき、本当にありがとうございました。1週間前の敬老の日に安部首相、福田知事、佐

藤市長様より100歳のお祝いの表彰をいただいたばかりの大往生なので、今日のスマイルにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。



## 卓話

「宇都宮市政について」  
宇都宮市長 佐藤栄一様（名誉会員）



皆様、こんにちは。本日は「ロータリーは機会の扉を開く」ということで、なかなかお会い出来ない方々と会うことが出来ました。今日は宇都宮のまちづくりについてお話したいと思います。

### － パワーポイントにて説明 －

宇都宮市において今最も力を入れているのは新型コロナウイルス対策です。宇都宮市では、検査をしたら即日結果がわかります。一日あたりの検査件数は260人、ドライブスルー方式も行っています。唾液検査も認められましたので検査数が拡大します。冬に向けて、インフルエンザも流行します。インフルエンザの予防接種を受けていただけるよう、全ての市民の皆様にお出金いたします。寄付も、ふるさと応援寄付事業で904万円、マスクの寄付受入は23万枚、医療機関に回させていただきました。また、宇都宮市単独の緊急経済対策、コロナを押しえながら経済を守っていく大変難しい状況でしたが、現在も続けています。事業者への当初3年間実質無利子の特別資金の貸し付けや、企業等の応援として国の持続化給付金に該当しない方に給付金を支給いたしました。外食産業でデリバリーやテイクアウトを開始するお店への補助、家賃の一部助成や、家賃を減免した大家への支援もいたしました。飲食店の支援のために、宇都宮市のプレミアムチケットの食ベトクチケットを発行しました。

さて、これからの宇都宮ですが、未来都市宇都宮、キーは「今を生きる市民の皆さんと次を生きる子ども達のために宇都宮を作っていこう」です。16年前に公約に掲げたのが、人口減少に対して持続可能な都市の機能を作っていくことと、財政を健全化して、次の世代に負担を残さないという財政改革をすることでした。宇都宮市の人口は52万人ですが、何の手も打たなければ、2050年には約45万人になります。まちづくりのための税収も不足し、皆様へのサー

ビスも低下し、他県へ引っ越したり、企業も逃げてしまうと思います。そうならないように、様々な魅力を作っておかなければなりません。教育、子育て、都市機能の点で選ばれる都市になるために、宇都宮市は、「ネットワーク型コンパクトシティ」というまちづくりを進めていきます。生活が不便だから中心市街地に移り住むのではなく、それぞれの今の地域の中でも利便性を増して、いつまでも住み続ける、限界集落は作らない、小中学校の統廃合はしない、というのがこの考え方です。そのためには、公共交通をしっかりと充填するということになります。地域内交通で病院やスーパーや郵便局など身の回りの場所にいくことが出来るまちをつかっていくとともに、スーパーなど日常生活に必要なものがなければ行政が責任を持って誘致し、それぞれの地域で日常生活に困らないようにします。これから高齢化が進み、車の運転が出来ない方が増えます。皆さんが移動できる公共交通を用意しておくことが必要になります。デマンドタクシー等や、バス路線も増やしていきます。皆様にはICカードを持って移動していただきます。それらの社会を総じてスーパースマートシティというまちを作り、その主軸となるのが、JR線、東武線、そしてLRTになります。

宇都宮市が目指す未来都市スマートシティとはどんな街か。地域内交通をはじめ、すべての公共交通がICカード一枚で乗れるようになります。また、地域内交通を自動運転化し、タクシー会社やバス会社に管理運営をしていただき、台数を増やすことを考えています。スポーツ観戦等の5G対応、携帯電話で飲食店等の予約や決済ができる、公共交通の予約や時刻表が瞬時にわかる、住民票等がとれる、そういう体系にしたいと考えています。電気という点で、来年は、中学校、小学校という順に体育館の冷暖房化を進めて参ります。これから電気が必要となってきますが、この電気を、宇都宮の中で作り消費する、エネルギーの地産地消を全国の自治体の中でトップを切っておこなってまいります。学校におきましては、GIGAスクールということで小学校、中学校で一人一台のタブレットを配布いたします。また、5G対応のWi-Fiを宇都宮全域に設置していきます。スマートシティを実践するために、Uスマート推進協議会を作りました。今、大谷地区で自動運転の社会実験をしています。宇都宮はこうしたまちづくりをして、人や企業をどんどん呼び込んで、人口が減りにくい、企業が持続発展出来る、そして税収が安定する、好循環の社会を作っていきたいと思います。また、国交大臣から日本の中心市街地の活性化で成功した例、宇都宮、という紹介をいただきました。これからも、宇都宮の魅力作りに力を入れて参りたいと思います。